



令和3年産「ゆめかおり」栽培講習会を開催しました。

パン用小麦「ゆめかおり」の生産規模拡大と品質維持に向け、生産グループ「茨城パン小麦栽培研究会」を対象に、令和2年10月13日に栽培講習会を開催し、県農業研究所、県農業総合センター、当普及センターから栽培管理のポイントについて説明を行いました。

当研究会は、きめ細かな肥培管理により、パンの膨らみを左右する「タンパク質含有率」を調整し、実需者ニーズに合った高品質な小麦づくりを実践しています。

実需者と直接取引を行っていることもあり、各生産者が責任感をもって栽培ルールを確認しました。

当研究会は、近年の需要の高まりを受け、「ゆめかおり」の栽培面積を急速に拡大しつつあります。

平成26年の研究会発足当初は、当普及センター管内の生産者のみでしたが、現在は県西地域を中心に、複数の普及センター管轄エリアで生産者が増えています。

産地の拡大に対応するため、昨年度、衛星画像解析を肥培管理の指標として導入し、先端農業技術の実装による品質管理を開始しました。普及センターでは、広域連携しながら技術サポートを行い、ICT等を活用した高品質な麦づくりを推進していきます。



県内各地で雑草イネの発生が確認されています。

雑草イネは、脱粒性が高く、こぼれた種子が水田で越冬して世代交代を繰り返すイネです。また、雑草イネの種子は、赤色や褐色に着色しているため、着色粒として扱われ、玄米に混入する被害が問題となっています。

雑草イネのまん延を防ぐには、早く発見して発生数が少ないうちに防除することが最も重要です。

雑草イネの見分け方

雑草イネの発見するポイントは、以下の3点です。

- (1) 出穂した穂の様子が植えたイネと違う
(芒の有無・草丈・草姿など様々なタイプ)
- (2) 粃が落ちやすい
- (3) 粃・玄米の様子が植えたイネと違う(右図)



(図) 雑草イネ(A~G)とコシヒカリの粃と玄米

※中央農業総合研究センター作成

「雑草イネまん延防止マニュアルVer.2」より引用

雑草イネの防除対策

下記の3点を組み合わせて行うことが効果的です。

- (1) 5月下旬以降の代かき
- (2) 除草剤の3回体系処理(初期剤, 一発処理剤, 中期剤)
- (3) 出穂2週間前の手取り除草

雑草イネに関するご相談は、
普及センターまでお問い合わせください。

農業用ハウスの強靱化を行いましょ。

近年、農業用ハウスに甚大な被害を与える自然災害が多発し、農業経営に大きな影響を及ぼしていることを受け、県では、風速36m/s以上に耐えられる強度のハウス（『強靱化ハウス』）の整備を推進していく方針を打ち出しました。

これに伴い、県では、農業用ハウスの補強対策等についてまとめた「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」を作成し、農業者の皆さんに配布するとともに、今後、農業用ハウスの新設等に当たっては、県等の支援策を活用する場合、補助の対象を『強靱化ハウス』に限定していくこととしております。

「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」及び具体的な支援策については茨城県県西農林事務所企画調整部門ホームページ等をご参照下さい（問合せ先：農業振興課(0296-24-9174)）。

レタス黒根病にご注意ください。⚠

今年度も県西地域の露地レタスほ場において、被害が確認されています！

病徴

- 地上部では外葉の黄化、生育が遅延し、症状が進むと結球しないなどの生育不良となる。
- 根部の症状は、根の一部が帯状に黒変、隆起して根表面に亀裂を生じる。病徴が進行すると、根全体が黒変し、細根が腐敗脱落する。



被害根の様子
← は病徴

ポイント

- 被害は8月定植、10月収穫の秋レタスで最も発生しやすくなる。
- 根部の症状は、ネグサレセンチュウの被害痕と類似し、判断が難しい。

防除対策

- 連作により土壌中の病原菌密度が高まるため、過度な連作を避ける。
- 本病発生ほ場での作業は最後になるよう計画し、作業終了時には農機具類、長靴等は丁寧に洗浄する。

★生育不良株が発生した場合、収穫終了後に、必ず根を確認してください。

★上記のような症状がありましたら、普及センターまでご連絡下さい。

果樹の越冬病害虫の防除を徹底しましょ。

果樹の落葉上や粗皮の隙間等で越冬する病害虫は、気温の上昇とともに活動を始めます。生育期の発生を抑えるためには、越冬病害虫の密度を低下させることが重要です。今年度、ブドウのべと病や褐斑病、ナシの黒星病や炭疽病等の発生が多かった園では、落葉処理を徹底しましょ。

また、コナカイガラムシ類等による果実被害（着色ムラ、凹凸等）が県内で増加しています。被害が大きい園では、粗皮削り、誘引紐の更新、虫のこすり落とし、寄生枝の切除、発芽前の薬剤散布等で越冬個体数を減らしましょ。

農薬を使用する際は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。



↑クワコナカイガラムシの雌成虫

12月 土壌診断実施日のお知らせ

12月9日（水）、12月23日（水）の2回

- 個人の農家の方が対象です。
- 受付は先着順となりますので、お早めにお持ちください。
電話等での予約は行っておりません。
- 1回の診断で50点までの分析となります。
超えた場合には 次回の診断日となります。
- 1人あたり5点以内の持ち込みでお願いします。

編集後記

坂東普及センターに異動して8カ月が経過しました。毎度、皆様の優しさに助けられながら、普及活動ができる有難みを感じています。また、朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、体調管理にはお気をつけください。（栗原）